

静岡県試験研究 10 大トピックス（水産技術研究所）

<p>タイトル</p>	<p>高品質な浜名湖ブランドアサリの養 殖技術開発</p>	<p>研究課題名 期間</p>	<p>身入り向上によるブランドア サリ創出のための垂下式養殖 技術の開発 H27～28</p>
<p>所 属</p>	<p>水産技術研究所 浜名湖分場</p>	<p>補職名 研究者名 問合せ先</p>	<p>主任研究員 上原陽平 053-592-0139</p>
<p>研 究 概 要</p>	<p>〔背景・ねらい〕</p> <p>浜名湖においてアサリ漁業は重要な地域産業であるが、アサリ資源自体の減少などにより、漁獲量が近年不安定な状況にある。漁獲量制限などによる資源再生への取組が漁業関係者により進められているが、一方で消費者への“高品質なアサリ”の安定供給も求められている。</p> <p>このため、資源を守りながら安定した供給を図るため、これまで行われていなかったアサリの垂下式養殖の技術開発を試みた。垂下式養殖の導入にあたって、アサリの重要な品質要素である身入り（肥満度）が良い“高品質なアサリ”を生産する手法や、飼育器を改良して作業負担を軽減する手法について検討を行った。</p> <p>〔成果の内容・特徴〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 浜名湖内 5 か所において養殖試験を行い（図 1）、浜名湖産天然アサリ（天然貝）と肥満度を比較したところ、秋期に平松、気賀、猪鼻湖の湖奥部において高くなり、秋～冬に産卵のため低下し天然貝と同等となったが、冬～春期に再び高くなった（図 2）。冬～春期のへい死数は秋期と比べ少ないことから、浜名湖では冬～春期に湖奥部で養殖を行うことが適している。秋～冬の低品質なアサリを春まで 3 か月間、養殖することで高品質なアサリとすることができた。 2 肥満度と相関があり餌料環境の指標であるクロロフィル a (chl-a) の濃度を養殖試験と併せて調査したところ、肥満度が高かった試験区でのみ chl-a 濃度が 10µg/L 以上であったことから、この値が冬期における養殖適地の目安となると考えられた。 3 基質である砂利が重く、水抜けが悪いため作業負担が大きい従来の飼育器（従来型：図 3 上）と、軽石を基質とした網型の構造をした飼育器（新型：図 3 下）で養殖試験を行ったところ、新型は作業負担が軽減され、肥満度も天然貝より高く従来型とほぼ同じ（図 4）であったことから、新型が垂下式養殖に適していることが示唆された。 4 これまで採捕が主体であったアサリ漁業において、養殖という新たな形態が創出されることで、消費者への安定供給と漁家経営の安定が期待できる。また、アサリ漁業は冬季に漁獲量・収入が減少するため、垂下式養殖の導入は冬季の収入減少の対応策にもなる。 <p>〔成果の活用・留意点〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新たにアサリの区画漁業権を取得する必要がある。 2 養殖したアサリのブランド認定基準づくりや販売先の開拓など流通体制の整備について関係業界と検討を進め、消費者へ安定して供給する体制を構築する必要がある。 		

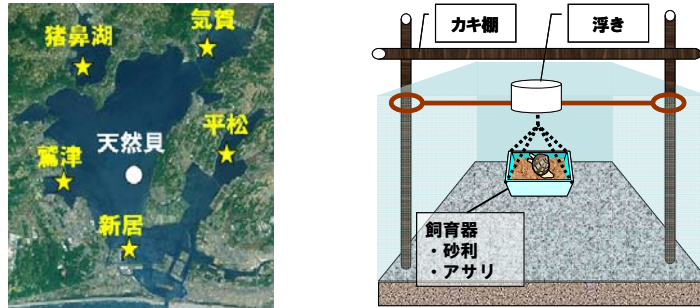


図1 養殖試験区の位置（左）と養殖試験方法（右）

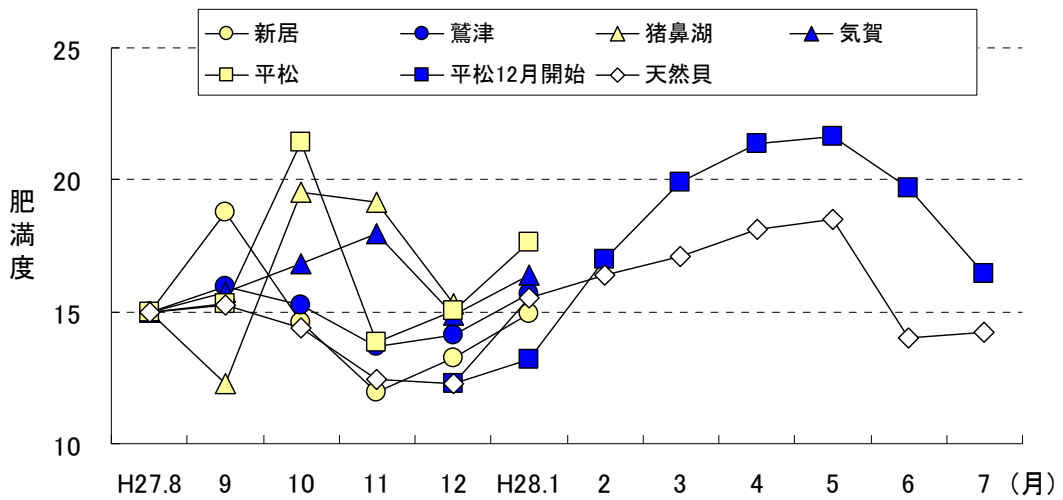


図2 各試験区の養殖貝と天然貝の肥満度の推移



図3 従来型(上)と新型(下)

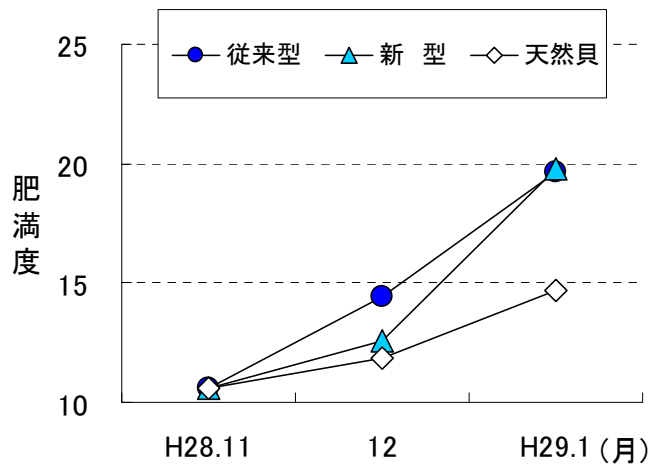


図4 従来型と新型における肥満度の推移